

地域イノベーション戦略支援プログラムの推進体制

～ 大学における研究者 と 技術支援スタッフ ～

【2015年4月現在】

1 熊本大学 担当教授：大学院自然科学研究科 教授 伊原 博隆



(1) 招へい研究者



① 吉田 恭平 (ヨシダ キョウヘイ)

■研究テーマ名「有機薄膜型光電変換層の開発およびデバイスへの展開」

固体物理学、光学を基盤とする研究者。世界初の中赤外レーザーによる解析方法の設計開発に貢献した実績あり。有機エレクトロニクスデバイス作成過程のプロセス設計・省エネルギー化で貢献が期待されます。



② 李 在衡 (LEE Jae-hyeong) (イ ザイヒョン)

■研究テーマ名「有機薄膜デバイスのための光学材料および製膜プロセスの開発」

太陽電池のサブモジュール開発や光電変換用有機/無機薄膜塗布プロセスの開発を行ってきた有機薄膜技術のエキスパート。太陽電池や照明に係るデバイス評価で貢献が期待されます。



③ 櫻井 英夫 (サクライ ヒデオ)

■研究テーマ名「封止材、封止プロセスおよび自動化技術の開発」

計算科学のエキスパート。装置メーカーでのプロセス開発の経験あり。有機素子や封止材の探索研究で貢献が期待されます。

(2) 技術支援スタッフ



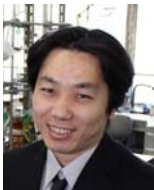
① 宮崎 佳穂子 (ミヤザキ カホコ)

大学が保有する有機薄膜技術関連研究設備群の紹介や地域での活用促進に取り組んでいます。

2 崇城大学 担当教授：工学部ナノサイエンス学科 教授 八田 泰三



(1) 招へい研究者



① 桑原 廉枋 (クワハラ レンペイ)

■研究テーマ「有機薄膜型電光変換層の開発およびデバイスへの展開」

有機合成をベースに主に高分子、複素環、液晶、超分子化学の分野に精通。単純な素子構造で安価に製造でき、十分な性能を有する電光変換素子を実現する有機半導体材料開発を担当します。



② 植村 由 (ウエムラ ユウ)

■研究テーマ「塗布型有機半導体材料の開発と塗布法による成膜技術の確立」

有機合成化学、光化学、界面化学、電気化学、高分子化学等に精通。塗布型有機半導体材料と電光変換材料の開発及び塗布法による成膜技術を確立して、薄膜デバイス試作と評価を行います。

(2) 技術支援スタッフ



① 松本 文子 (マツモト アヤコ) <写真左>

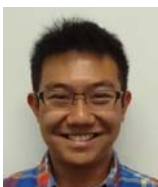
地域の企業・研究機関との連携の経験を活かした技術支援等を行っています。

② 立中 咲樹 (タテナカ サキ) <写真右>

化学試薬メーカーの試薬開発と有機分析試験を活かした技術支援を行っています。

3 九州大学 担当教授：最先端有機光エレクトロニクス研究センター(OPERA)センター長 安達 千波矢

(1) 招へい研究者



① Daniel Ping-Kuen Tsang (ダニエル ザン ピン クエン)

■研究テーマ「有機電光変換素子の高性能化」

応用光学、有機半導体を基盤とする若手研究者。デバイス構造の検討による有機太陽電池及び有機ELデバイス性能の最適化に関する研究を推進しています。

